



1/27 ▶ 68チームが力走

5部門に68チームが出場し、第36回下田河津間駅伝競走大会(6区間23.74km)が行われました。選手達の熱い走りに沿道から多くの声援がおくられました。(各部門優勝チーム) 一般男子：下田調理師会、高校男子：下田北高校、一般・高校女子：下田北高校、中学男子：下田中学校、中学女子：河津中学校



2/16・17 感性豊かな作品が並ぶ

小中学校造形展が下田小学校体育館で開かれました。絵画や工作など小・中学校と伊豆つくし分教室の児童生徒の力作1889点が会場いっぱい展示され、多くの親子連れが鑑賞に訪れました。



2/16 ▶ 三世代の意識の交流

約700人の方々にご参加いただき、三世代意見発表交流大会が市民文化会館で開催されました。小学生、中・高校生、父母、祖父母の各世代から6人が家族への感謝や地域への思いを発表し感動を与えてくれました。



2/2・3 なれない手つきで和菓子作りに挑戦

新たな体験メニューづくりを目的に行っている、日本文化体験プログラム。今回は、伊豆地域在住の外国人男女5人が参加し和菓子作りや和風旅館でのおもてなし、温泉、蕎麦打ちなど日本の文化を体験しました。



2/11 無病息災を願い

市指定無形民俗文化財「鬼射」が落合の高根白山神社境内で行われました。射手2人が、裏に「鬼」と書かれた的めがけ、12本の弓矢をはなち、見事10本が命中し、大きな拍手がおくられました。

1日	生活習慣病予防講演会
2日	ごみひろいしましよ(外浦海岸)
7日	第28回「北方領土の日」記念 史跡めぐりマラソン大会
16日	下田市三世代意見発表交流大会
16・17日	下田市造形展

25日	共立湊病院組合議会
26・27日	2月臨時市議会
29日	下田地区消防組合議会 伊豆斎場組合議会 南豆衛生プラント議会

下田市内の指定文化財その②

下田市指定史跡

不動明王坐像

所在地 吉佐美 宝徳院
指定日 昭和56年8月7日



宝徳院の不動明王坐像

下田市街から国道136号線を南下、田牛入口で左折し、大賀茂川にそった道を行くと、左手に車地蔵があります。このお堂の前の小道を入ると、突き当たりが宝徳院です。仏像の漂着伝説

宝徳院が位置する谷を通称、仏谷といいますが、伝説によれば、平安前期に船が吉佐美の浜に漂着したといわれ、この船には天台宗の高僧、智証大師円珍と多数の仏像が乗っていたといわれます。仏谷とは漂着した仏像にちなむ地名で、漂

着した仏像の一体が宝徳院本尊の不動明王坐像だと伝説は伝えているのです。宝徳院本尊・不動明王坐像は、像高65cm。紅の火炎を背にした青黒色の像で、両目を見開き、結んだ唇からは牙が上下に突出する迫力の姿です。また、右手には剣、左手に縛るための羅索を握っています。これは魔や人の煩惱を降伏することをあらわしています。

制作年代
伝説によればこの像は、平安前期の作ということになりますが、実際はどの年代でしょうか。実はこの仏像は、江戸時代の宝暦10年(1760)に大がかりな修復を行っており、当初の姿をつかがいにくくなっています。しかし、頭と胴体を一材で作り、内割を施さなという技法は古風なものです。また、時代が下った不動明王像は左目をしかめるものが多いのに対して、この像は両目を大きく見開いています。これらの特徴から、この像は平安時代の貴重な仏像と考え



宝徳院(吉佐美)

教育委員会生涯学習課
問合せ先
南伊豆方面行きバス 吉佐美
バス停下車徒歩5分
アクセス 伊豆急下田駅より

☎5055

樹の葉 vol.72

1市3町の合併に加え、新たな課題が発生しました。共立湊病院を運営する社団法人「地域医療振興協会」が平成21年度以降、病院経営から撤退する意向を伝えたニュースは大きな衝撃をもたらしました。将来に向かっていくつかの医療問題を抱えているこの地域のことに、石川県知事は記者会見の中で、「あの地域は救急医療についてもドクターヘリでカバーせざるを得ない非常に心もとない状況になっています。加えて観光が基幹産業の地域で救急医療がしっかりしていることが滞在型交流人口の拡大にもつながっていきます。この困難な状況をどのようにカバーあるいは乗り越えるのか、設置責任を持つ。共立湊病院組合(1市5町)がしっかりとした考えをつくる努力が必要です。その上で県に(支援を)要請していただくのであれば話を承ることはやぶさかでない」と話されました。

長と面談。この中で病院側から①地理的不利な状況で医師、職員は精一杯頑張ってきたが、もう限界に近い。②賀茂地域は人口減が大きな問題となっている。③今の湊地区は救急医療ができる立地でない。④賀茂全域の救急医療をカバーできる場所に新病院構想を1年以内に示してもらいたい。⑤湊病院跡の医療については、跡地利用も含め充分に配慮いたします。この条件を理解してもらえらば、今後3年間指定管理者を受けさせていただきますとの提示がありました。我々6人はこれを受け入れることとで合意し、その後の病院組合議会で議決いただき、とりあえず3年間の病院存続は確保できたのであります。

昨年1年間の救急車の出勤は1900件で、その搬送先は共立湊病院が1300件でした。伊豆下田病院が2次救急から撤退した今年は、1500件以上を共立湊病院で受けてもらうことになるでしょう。失ってはならない地域の中核病院。この難問題、解決に向かって精一杯取り組んでまいります。



下田市長 石井直樹